

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立古志原小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

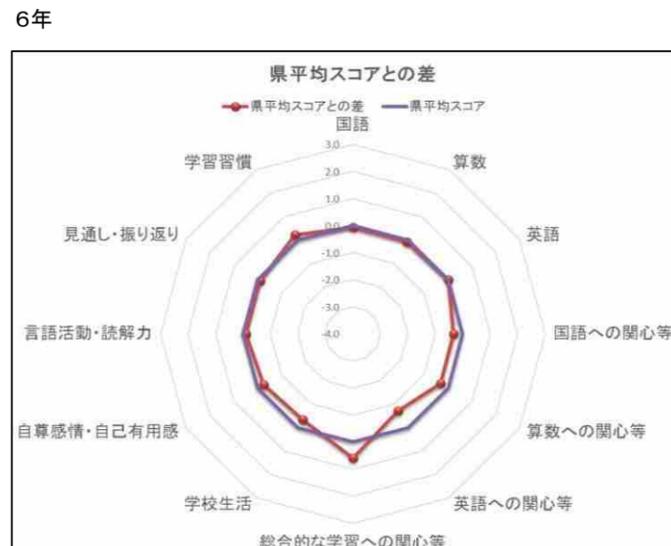
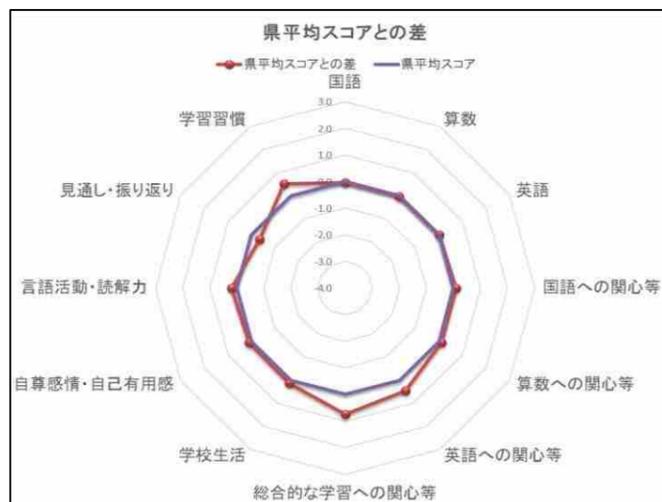
	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語 ○「修飾・被修飾の関係」について理解できている子が県平均より11.5ポイント上回った。 ○「話し手の意図をとらえながら聞く」は県平均を5.3ポイント上回った。 ●「ローマ字を書く」では、県平均を9.6ポイント下回った。 ●「考えたことから話題を決め、収集した知識や情報を関連付ける」は県平均を8.9ポイント下回った。	・ローマ字の復習を定期的に行う。 ・文章の内容を正確に読み取るために、要旨や要点をまとめる学習活動を適宜取り入れる。
	算数 ○「6つの図形から台形を全て選ぶ。」では、県平均を18.8ポイント上回った。○「直方体の高さと同積の関係性を答える。」では、県平均を10.6ポイント上回った。 ●「分度器で角の大きさを測っている図を見て、角度を答える」では、県平均を16.7ポイント下回った。 ●「少数のかけ算の計算とその意味を正確に理解できている児童が少ない。」 ●「公約数の応用問題を解くことができない児童が多い。」	・分度器で実際に角度を測る操作活動をできるだけ行う。 ・小数の計算問題を意識的に取り上げ、技能の定着を図る。 ・題意をつかんで公約数、公倍数のいずれで考えればよいかを判断する力をつけるために、復習などを取り入れ多くの問題に触れさせる。
6年	国語 ○全国学力調査で本校では無回答率が高く課題であったが、改善が見られ、作文の問題でも県平均より無回答率が低い問題もあった。 ●条件に合わせた作文を書く問題での正答率が低かった。 ●以前に学習した漢字を書く問題での正答率が低かった。	・作文を書くことへの抵抗が減ってきている現状なので、書く機会を増やすようにする。 ・作文を書くときに字数や内容などの条件を付けた短作文を書く機会を設け、書くことの積み重ねを大切にする。 ・6年間のおさらいをする機会が増えるので、漢字のおさらいをする時間を設ける。
	算数 ○全国学力調査を受けて、以前に学習したことを忘れてしまいやすい傾向があることを受け、授業の冒頭に2~3問ずつこれまでに学習した問題を解くことを繰り返した。その結果、直近に学習した内容は正答率が高かった。 ●復習の時間では網羅できない部分もあり、学習して時間の経った小数の計算や、他単元で応用することの少ない文字を使った式で正答率が低めであった。	・6年生のまとめをする時期になっており、さまざまな内容の復習を積み重ねていく。 ・授業の冒頭には必ず復習の時間を入れる。 ・復習の時間を増やすことにより、子ども自身が苦手な領域が意識できるようにして、自学などで復習する時間を取ることができるようにする。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項 ○「授業で調べ学習をよくしている」、「授業で話し合う活動をよくしている」が県平均より約10%上回っている。 ●「授業の中で目標が示されていると思う」の肯定的回答が0.4%、「授業では最後に学習したことを振り返る活動をよく行っていると思う」の肯定的回答が7.1%、県平均より低かった。	・見通しを持って学習できるようめあてを提示したり、学習の振り返りを行うことを授業中にしっかりと行う。
	家庭学習に関わる事項 ○「家で学校の授業の復習をしている」が県平均より約10パーセント上回っている。 ●「家庭学習時間1時間以上」は県平均を約20パーセント下回っている。	・家庭学習は5年生は50分以上と設定しているが、これまで50分で精一杯の児童も見られた。宿題の量や内容を吟味し、60分(もしくはそれ以上)できるように配慮する。
6年	授業改善に関わる事項 ○総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集めて取り組んでいるとした子どもが多い。平和学習などの成果と考える。 ○授業の中で話し合いで考えを深めることが多いと回答した子どもが多い。対話を軸に研究を進めている成果が出ている。 ●授業で発表する機会が多いとする子どもの割合が低い。	・話し合う機会は多いのにも関わらず、発表をする機会が多いとは思っていないことから、対話活動が少人数のみで機能している可能性がある。自分の考えを表明する場を積極的にもちたい。
	家庭学習に関わる事項 ○家庭学習に関する肯定的な回答の割合が高い。予習や復習をしたりして、自学を中心に毎日取り組んでいる成果と考える。 ●宿題を丁寧に返す、という項目の肯定的回答の割合が低い。	・自学は子どもたちが熱心に取り組んでいるので、学力調査結果からも苦手の克服の場とするなど、さらなる内容の工夫ができるようにしたい。そのためにも、毎日子どもたちのノートを丁寧に返す、よい点や課題点を具体的に子どもたちに伝えるようにしていく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

	国語	算数	
5年生	本校	62	54
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 97人

(参考) 平均正答率

	国語	算数	
6年生	本校	66	57
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 100人

各スコアの範囲は-4から+3まで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

